

# 明石高専 同窓会通信 第10号

〒674-8501 明石市魚住町西岡 679-3  
明石工業高等専門学校・同窓会  
TEL・FAX (078) 946-6186

## 目 次

高専で身に付けるべき「能力」とは何だろう·····	椿本 博久	1
校長就任にあたってのご挨拶·····	京兼 純	2
高専交流人事を終えて·····	江口 忠臣 八木 雅夫	3、4
各種コンテストの結果·····		4
明石高専同窓会・明機会・萌友会からのお知らせ·····		5
萌友会からのお知らせ・退職される先生・事務局からのお知らせ·····		6

## 高専で身に付けるべき「能力」とは何だろう 電気工学科2回卒 椿本 博久

20歳で明石高専を卒業して40年余、私も60を越えたが思いもかけず母校の教職員に採用されてこの5年、学生達の指導に当たっている。

母校の校舎や校庭は昔のままだが、学生達や学生達の卒業後の進路は大きく変わっている。私の所属する電気情報工学科では、卒業生の大部分が大学編入や専攻科へ進学する。時代や社会が要求する知識の量が増えたのだから仕方ないとも思うが、卒業生の一人としては、改めて「今の時代に、高専の使命とは何なのだろう」と自問自答している。おかげで最近頭が急速に白くなった(いや年のせいか!)。

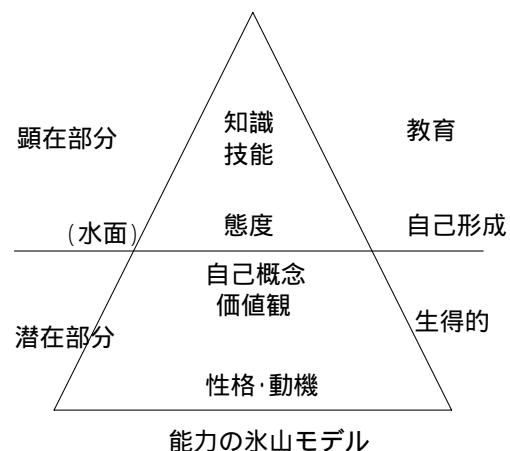
さて「高専で身につけるべき能力とは何でしょう」皆様はどのようにお考えですか。

私は、高専で身につけるべき能力は、第一に専門領域における知識と技能であり、その点においては人後に落ちない日々の努力が必要だとは思うが、40年余さまざまな職業や職種を経験して、それもまた「能力」という氷山の頂点にあるただ「知っている」という「保有能力」でしかないと思うようになった。学校を出たら、それら身につけた知識を「運用する能力」が求められるのであり、その「運用能力」は、どんな職業や職種にも「転用可能な汎用能力(generic skill)」、すなわち 批判的思考力、問題解決能力、コミュニケーション能力や チームワ

ーキング能力であって、普段のペーパーテストでは計ることができないのである。

私は、今はもう夢物語になった、「自分達は卒業したら、社会に役立つ中堅技術者となるんだ。大学卒業生達には負けないぞ」という決意や志の中に、この種の「能力」を高める強いモチベーションが明石高専の「隠れたカリキュラム(hidden curriculum)として生き生きと働いていたと思っている。

「高専で身につけるべき能力」とはいったい何だろうか。卒業生各位の、社会で実感された貴重な経験から得られたメッセージを、後輩の在校生達にぜひフィードバックして頂けるようお願いしたい。



## 校長就任にあたってのご挨拶

校長 京兼 純

明石高専同窓会の皆様には、ますますご健勝で多方面にわたって、ご活躍のこととお慶び申し上げます。この度、高 久晴校長の後任として、平成 20 年 4 月 1 日付で奈良高専から異動となりました京兼です。奈良高専では電気工学科の教員として 39 年間を過ごし、最後の 3 年間は教務主事としての仕事をしていました。この間、奈良高専から離れたのは、文部省（現、文部科学省）在外研究員としてフランス国立科学研究センター（CNRS）放電物理学研究所および国際協力事業団（現、国際協力機構：JICA）電気・電子系の長期派遣専門家としてインドネシア共和国・スラバヤ市へ赴任した 2 年間のみで、多くは吹奏楽部を始めとするクラブ活動や寮務主事として寮生の指導、学科や学校運営、5 年生と専攻科生に対する研究支援の日々でした。

さて現在、明石高専を取り巻く状況は、平成 19 年度、実に 16 年ぶりに国として高専教育の充実について中央教育審議会の俎上にのりました。中教審の大学分科会・高専特別委員会では、「高等専門学校の教育の充実について～ものづくり技術力の継承・発展とイノベーションの創出を目指して～」が鋭意・検討され、まとめられたところです。この答申の中身は、「それぞれの高等専門学校が自主的・自立的改革に不断に取組み、社会経済環境の変化に積極的に対応」、「中堅技術者の養成から、幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成へ」、「多様な高等教育機関のうちの一つとして本科・専攻科の位置付けを明確に」、「産業界や地域社会との連携を強化し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者の輩出へ」の 4 つが大きな柱となっています。6 年前に独立行政法人化しました国立高等専門学校機構では、55 高専が一つの法人となりスケールメリット生かしつつ、本答申を受けまして教育・研究活動・地域との連携活動を進めているところです。

このような教育・研究活動の高度化と活性化、地域連携事業が図れるのも、高専に専攻科が設置されたからに他なりません。明石高専では、

ご承知のようにいち早く専攻科を設置して 7 年間の一貫教育を行い、創造性豊かな高い資質を持った技術者となるべき人材の養成を進めています。それに付随した質の向上と保証に関しては平成 18 年度に機関別認証評価を受け、大学評価・学位授与機構から高く評価されています。また、本校は兵庫県で初めて JABEE(日本技術者認定機構)から世界的に通用する技術者養成機関として認定され、5 年が経過し、本年度さらなる飛躍に向けて 5 年間の審査を受けたところです。

本校では、「アントレプレナーシップ事業」や「ため池プロジェクト」などが実施されており、この 2 つの事業を統括して「ソーシャルマーケットを利用した学生の育成」を全学的に立ち上げ、文部科学省の平成 20 年度学生支援 GP (Good Practice) に申請したところ、このたび採択されることとなりました。学生支援 GP の成果の一つとして明石高専は、全国高等専門学校デザイン・コンペティション 2008in 高松において、環境デザイン部門で国土交通大臣賞（最優秀賞）と優秀賞（2 位）、空間デザイン部門で優秀賞（2 位）という栄誉に輝きました。さらにまた課外活動での特筆すべきことは、北海道で開催された全国高等専門学校体育大会へ、実に 14 種目のうち 10 種目に総勢 126 名が選手として参加し、陸上競技部門・女子走り幅跳で田中美帆さんが見事優勝を果たしました。

このように在校生の活躍は目を見張るものがありますが、こうした活動を通して地域社会に貢献でき、環境教育にも視点をあてると同時に、技術・工学系分野において多様な資質を持ち、社会や学術の発展に貢献できる豊かな人間性を備えた、人材育成に努めていきたいと思っている次第です。

最後になりましたが、同窓生の皆さん明石近くに来られる機会がありましたら、ぜひ母校へ立寄って近況報告や就職依頼等で教職員に気楽に声をかけて戴ければと思います。それでは皆様のさらなるご健闘とご発展を祈願しております。

## 高専交流人事<sup>1</sup>を終えて… 明石高専から他高専に赴任された先生方より

人事交流を終えて～雷とからつ風義理人情～

江口忠臣（M20期）

高専機構人事交流制度第1期として1年間群馬高専で勤務し、この度明石高専都市システム工学科に復帰いたしました。異動によるこの制度のあり方に関する議論は他に譲り、今回の経験から得られたものを挙げてみました。

群馬高専は産学連携が活発で外部資金獲得にも積極的に取組んでおり見習うべき点が非常に多くありました。これは教員個々というより学校としてそういう土壤を作り上げていかなければならぬということです。

教育システムについてもこれまでの積み上げによる特色あるもので良い点を取り入れていきたいと感じました。私自身はといいますと、モットーは学生とのコンタクトに時間を費やすということなので、授業、HR、卒業研究、ゼミ、部活動とそれに沿ってできたのではないかと思っております。研究環境の制約がある中でのゼミ、卒研指導や競技経験のない体育系クラブ指導は貴重経験となりました。学校以外でも祭り、清掃、体育行事など地域の活動に数多く参加できたことは大きな収穫でした。群馬を離れるに際し担任学生、卒研生、顧問クラブ員、教職員、地域の方から多くの惜別の記念品をいただき人との繋がりを改めて感じました。

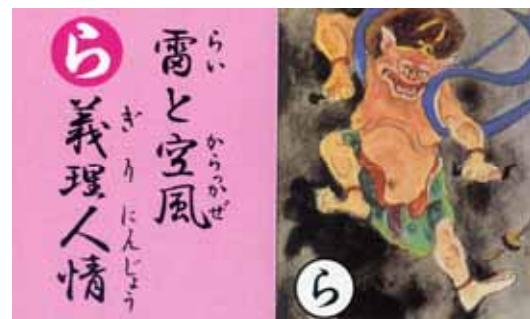
これからは、この経験をいかに明石高専に還元できるかということを常に頭に置き精進していきたいと思います。

### 吳高専での教員交流をふりかえって

平成16年度に全国55の国立高専は一つの独立行政法人「国立高等専門学校機構」となり、そのスケールメリットを活かした教員の資質向上のための事業として、平成18年度から全国の高専間、そして今では豊橋・長岡両技術科学大学をも含めた、教員交流が進められています。明石高専では、平成18年度に都市システム工学科の江口先生が群馬高専環境都市工学科に、そして平成19年度は筆者が吳高専建築学科にそれぞれ1年間、籍を置きました。また、この2年間、明石高専は大島商船高専、木更津



前橋祭り（官舎の一員として）



上毛かるた  
(県内小学生は必ずかるた大会に出場)

### 八木雅夫（A8期）

高専、徳山高専から一般科目に3人の教員を受け入れていました。

平成19年4月に始まった吳での単身赴任生活は、大和ミュージアムから徒歩10分ほどと吳市中心部にも近い、海上自衛隊吳地方総監部の真ん前にある吳高専の宿舎が拠点となりました。吳の地で生活し軍港の歴史環境を意識することになりましたが、佐世保、吳、舞鶴と、三高専が海軍鎮守府のあった地に開設されていることを改めて知りました。吳高専のキャンパスは、吳の市街地から休山トンネルを東に抜

けた安芸阿賀地区にあります。瀬戸内海に近接した埋立地に立地し、校内各所に地盤沈下の影響も見られますが、キャンパスに近接する休山や大空山といった緑の景観が目や心を癒してくれていたように思います。小学校から大学までがそろった文教ゾーンである阿賀の地では、吳高専が中心となって教育機関の連携活動「アガデミア」を展開しています。学生たちもキャリアアップ教育の一環として、積極的にこの活動に参加していました。

広島県が産業基盤の比較的整った地域ということもあり、吳高専の学生や保護者の意識としては地元定着志向が強かったように思います。実際には、広島県内企業に就職している人は少ないですが、進路として就職が半数程度かそれ以上を占め、進学の内訳も専攻科が多数を占めています。学科によっては就職希望者が数人しかいない明石高専の現状と比較すると、自ずと学生の入学目的意識や教育のあり方

も異なっていることが想像されると思います。

同窓会のことについて紹介しますと、吳高専の同窓会は学校全体のみで設立運営され、毎年正月に開催される総会と懇親会が教員にも案内の来る恒例行事になっています。会報を拝見すると、こうした機会に同窓会に対する寄付金も集めておられるようです。在籍当時、同窓会長は建築学科卒業の女性県議会議員が務められました。在学生にも意識される活動として、市民に参加希望を募った学校文化行事である千住真理子さんのコンサート開催を後援会とともに支援したり、大和ミュージアムギャラリーにおける建築学科設計作品展などの各学科の学生活動を支援していました。

教員交流をふりかえり、高専という同じ教育システムで運営されているといえ、すでに40年を超えた歴史の積み重ねの中で個性が育まれているというのが実感です。

#### 1 高専交流人事とは

国立高等専門学校では、教員を教員交流派遣者として他高専へ一定期間派遣し、他高専において教育研究活動に従事させる教員交流制度を設けています。この制度は、教員の力量を高め、各高専における教育及び研究の向上を図り、国立高等専門学校全体の活性化及び人事の流動性の確保することを目的としています。

## 各種コンテストの結果

### 第21回全国高等専門学校ロボットコンテスト（ロボコン）近畿地区大会の結果

K A M e D A S ( カメダス )	三位 ( 技術賞 )
三葉橋龍 ( クローバードラゴン )	生命大進化賞 ( 両チームとも全国大会出場ならず )

### 第19回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（プロコン）の結果

競技部門「フラっと収集車」	：一回戦第一試合：1位 / 8チーム中 一回戦通過
	準決勝第三試合：5位 / 7チーム中 敗退

### 第5回全国高専デザインコンペティション2008 in 高松（デザコン）の結果

環境デザインコンペティション部門	：最優秀賞（国土交通大臣賞）
	優秀賞一点

空間デザインコンペティション部門：優秀賞一点

### 第2回近畿地区高専英語プレゼンテーションコンテストの結果

プレゼンテーションの部 三位：審査員特別賞

## 明石高専同窓会からのお知らせ

### 平成 20 年度明石高専同窓会役員会議事録

- ・出席者：澤田会長以下 20 名
- ・会長挨拶 澤田会長より役員会にあたり挨拶があった。
- ・会計報告（資料）  
平成 18, 19 年度会計報告があり承認された。  
報告の中で同窓会資産が目減りしていることが指摘された。  
会費請求の在り方、卒業時の加入方法等について検討された。
- ・会計監査報告（資料）  
資料に基づき会計監査報告がなされ承認された。
- ・事業計画（平成 20 年度）  
下記の事業計画が示され承認された。
  1. 同窓会報発行
  2. ロボコン出場製作支援
  3. 高専英語スピーチコンテスト出場支援
  4. 役員会

デザインコンペティションへの支援も検討された。  
在校幹事でコンテストの整理（支援対象）を行うことになった。  
会報発行について方法、経費（ホームページの活用）を検討した。
- ・その他  
同窓会見学会の報告。  
50 周年事業の説明があり、学校から同窓会への協力依頼がある旨報告された。

## 明機会からのお知らせ

メーリングリストのアドレスが「 meikikai@ijnet.or.jp 」に変更されました。  
なお、明機会のメーリングリストはクローズのシステムであり、登録したメールアドレスのみしか投稿できません。  
新たな加入希望者は、明機会 web ページ  
<http://www.akashi.ac.jp/contents/Mechanic/meikikai/index.html>  
を参照下さい。

## 萌友会からのお知らせ

### 角田先生・桑原先生ご定年退職送別会のお知らせ

角田忍先生と桑原義文先生は平成 21 年 3 月 31 日でご定年を迎えられ退職されます。角田先生は昭和 47 年に本校にご着任以来 37 年間という長きにわたり本校のためにご尽力いただきました。コンクリート工学関係の授業をはじめ、学科および学校全体の教育、研究、地域連携および運営面でのご貢献はもとより、土木学会、日本材料学会、日本コンクリート工学協会での役職をご歴任されるなど学協会活動へのご貢献も多大であります。桑原先生は平成 15 年にご着任になられて以来 6 年間測量学、測量実習を中心に教えていただきました。両先生ともに学生指導やクラブ指導にもたいへんご尽力いただきました。両先生のご貢献に感謝し送別会を下記のとおり計画いたしております。

日 時：平成 21 年 3 月 29 日（日） 16:00 ~ 18:30  
場 所：明石グリーンヒルホテル

## 萌友会からのお知らせ

### 第1回見学会報告

会員相互の親睦を兼ねた第1回見学会が平成19年5月13日(日)に実施された。会員の家族や友人、高専の教職員あわせて約30名の参加であった。行程は、関西電力(株)の大飯原子力発電所、岸壁の母でおなじみの「舞鶴引揚記念館」、海の幸豊富な「舞鶴海産物センター」である。

大飯原子力発電所は471万kW(発電機4台)の最大級の原子力発電所で、一般では見学できない施設や装置を見学でき、日本の発電事情を知ることができた。また、引揚記念館では、入植家族の遠い日本への帰還行程や、戦後の生々しいシベリア抑留生活を見ることができ、参加者の年齢相応の感慨をうけた。当日は好天に恵まれ、和やかな雰囲気で楽しい、また、実り豊かな1日であった。

最後に、本見学会は、関西電力(株)と同社の長田芳成(E11回)会員のご協力で行われたことを付記し、深謝いたします。



### 平成21年3月末日で退職される先生

電気情報工学科	教 授 中尾 瞳彦
都市システム工学科	教 授 角田 忍
都市システム工学科	助 教 桑原 義文
建 築 学 科	講 師 武貞 健二

一般科目	教 授 大原 康昇
一般科目	教 授 香川 勝俊
一般科目	准教授 長谷川博史
一般科目	講 師 川島 朋子

### 事務局からのお知らせ

- (1) 会費の納入について 会費未納分がある方は、数年に一回の会報郵送時に同封の振り込み用紙を利用してご納入下さい。
- (2) 住所変更等の連絡について 住所などの変更がございましたら、お手数ですがハガキ、FAXあるいはE-mailにて下記の同窓会の事務局の方へご連絡下さい。
- (3) 原稿募集 同窓会通信の原稿を募集しています。同窓会への注文、近況報告など何でも結構です。下記事務局宛にお願いします。

同窓会事務局の電話、FAXを設置しています。不急の連絡は下記の窓口へお願いします。なお、留守番電話とFAXの処理は1週間毎に行いますので、緊急の連絡は在校の幹事までお願いいたします。

#### [在校幹事]

椿本博久(電気2回) tsubaki@akashi.ac.jp	友久誠司(土木4回) tomohisa@akashi.ac.jp
八木雅夫(建築8回) yagi@akashi.ac.jp	國峰寛司(機械16回) kunimine@akashi.ac.jp
江口忠臣(機械20回) eguchi@akashi.ac.jp	藤原誠之(機械25回) s-fuji@akashi.ac.jp
莊所直哉(建築28回) shojo@akashi.ac.jp	西村巖生(機械39回) nisimura@akashi.ac.jp